大学の知財を活用した新商品開発事例

芸術学部
生活環境デザイン学科
教授
青木 幹太

研究シーズの紹介

本研究は、協同組合福岡・大川家具工業会加盟企業である（株）アルファタカバと連携して、この会社が得意とする箱物家具のノウハウや製造技術を生かして、片付け（整理・整頓）が苦手な児童の増加という社会背景を踏まえ、家庭や保育の現場で幼児や児童の「片付けの習慣化」という行動変容を導くプログラムやそれを運用する道具（家具など）の研究・開発を行った。今後、多くの製造メーカーでは、物などのハードウェアだけではなく、それに付随するソフトウェアの開発が必要であり、大学が保有する知財を有効に利用した商品開発が重要となる。

Point デザイン技術

- 商品の外観だけではなく、関連するコトのデザインができます。
- 新しいコンセプトの発見と市場性のある商品開発ができます。

試作した収育家具

期待される活用シーン

- 従来の枠組みを超えた新商品開発の方向性やスタイリング（例：メーカー）

→ デザイン思考による新しいコンセプトの発見と企業が保有する技術の融合 →

- 高齢者の介助作業がもっと楽にできないか（例：ユーザー）

→ 本学の学部連携研究組織（ヒューマンロボティクス研究センター）の知財利用 →

その他の研究テーマ

地元の伝統工芸品等のデザインブラスアップ研究
デザインワークショップによる地域コミュニティづくり研究